

切り拓く



社会福祉法人
プロップ・ステーション理事長

竹中ナミ

たけなか・なみ——昭和23年兵庫県生まれ。神戸市立本山中学校卒業。24歳の時に重症心身障がい児の長女を授かったことで、障がい児医療・福祉などを独学。障がい者施設での介護などのボランティア活動を経て、平成3年就労支援活動「プロップ・ステーション」を創設。障がい者のパソコンの技術指導、在宅ワークなどのコーディネートを行う。11年エイボン女性年度教育賞、14年総務大臣賞受賞。著書に『ラッキーウーマン』（飛鳥新社）などがある。

コンピュータなど最新の科学技術を活用した障がい者就労支援に二十年以上にわたって奮闘してきたプロップ・ステーション理事長の竹中ナミ氏。現役の眼科医として目の悩みを抱える人々に向き合うとともに、iPS細胞を網膜に移植する手術を世界で初めて実現し、再生医療をリードする高橋政代氏。世の中の医学や福祉の常識に挑み、道なき道を切り拓いてきたお二人が語り合う、その気韻生動の人生、そして幸せな社会を実現するヒント——。

ある。倫理委員会の時だ」と。それで「え、何なの？ このカッコいいおばさまは」と驚いた（笑）。竹中 それ嘘や、絶対（笑）。他の人にもまあ、この髪型だけはよく覚えてもらえるようですけど。でも、その飲み会の場ですぐにお互い打ち解けたんですよね。私は二十年ほど前に社会福祉法人「プロップ・ステーション」を立ち上げ、コンピュータなど最新の科学技術を活用したチャレンジド（障がい者）の就労支援を続けてきて、政代さんはiPS細胞を使った網膜の再生医療、そして眼科医として視覚障がい者をサポートする取り組みをされてきた。だから、私には政代さんと友達になりたい、人柄を知りたいという気持ちですごくあったんです。高橋 私もナミねえと実際に話してみてもびっくりしました。いまでもこそ、ITを活用した障がい者の就労支援は広く知られてきていますが、ナミねえはそれを何十年も前から考えて実践してきたと。視覚障がい者の治療やサポートに携わる自分も、最終的なゴールとして、ナミねえと同じようなことをしたいなと思っていましたね。

※「チャレンジド」とは「障がいを持つ人」を表す新しい米語「the challenged（挑戦という使命や課題、挑戦するチャンスや資格を与えられた人）」を語源とし、障がいマイナスイメージのみ捉えるのではなく、障がいを持つゆえに体験する様々な事象を自分自身のため、社会のためポジティブに生かしている、という想いを込め、プロップ・ステーションが1995年から提唱している呼称。